

## 「2030年のほっかいどうを考える Women's Meeting」

### から考える「北海道SDGs推進ビジョン」への提案

(公財) さっぽろ青少年女性活動協会では、このたびの「北海道SDGs推進ビジョン」策定に当たり、取り残されやすいグループの一つである「女性」を対象に、声を聴きとるワークショップを行いました。また、「当日ワークショップには参加できないけれど、ぜひ声を届けたい」という女性たちからも意見をいただきましたので、ご報告いたします。

#### 1. 「2030年のほっかいどうを考える Women's Meeting」の結果報告

[日時] ①2018年9月26日(木) ①10:00~12:00 ②19:00~21:00

[場所] 札幌エルプラザ公共4施設 2階 会議室1・2

[場所] (公財) さっぽろ青少年女性活動協会

[協力] 北海道、EPO北海道

[内容] (1) 開会

(2) ワークショップ「2030年の自分、ほっかいどうを考える」

- ・2030年、ほっかいどうに増やしたいこと・もの
- ・2030年、ほっかいどうでなくしたいこと・もの
- ・2030年、ほっかいどうで変わらずにあってほしいこと・もの

(3) 閉会

「風と共に去りぬ」～安心して選択できる社会～	
増やしたいもの	個人事業。小商い。いろいろな働き方。兼業の自由。いろいろな家族。女性が半分いる意思決定の場。学校、家以外の場所。安全、自己決定、安心。子供の遊び場、遊び相手。安全。弱者への優しさ。返済義務のない奨学金。自然エネルギー発電。学びの格差、学びの自由。ベーシックインカム。仕事を創る。森、湿原、山、川、海、原野
なくしたいもの	二人目まだ?。なんで独身?。自由自己決定。誹謗中傷。セクハラ。強制的な飲み会。暴力。男ばかりの意思決定過程。女性一人だと経済的自立できない。女性に「男化」するよう求める風潮。自由、安全、安心、おおらか、強さ、しなやか自然と共生。なんで女同士で暮らしてるの? LGBT 過剰反応。異性カップルじゃないと使えないサービス。上下関係。核。一人で育てられない環境。家事ができない人。働いていないとダメ。プレッシャー。恋愛しなきゃプレッシャー。結婚しなきゃダメプレッシャー。残業。強制的な転勤。貧困女性。
残したいもの	歴史的建物。水。おいしい食べ物。自然。一人でいられる自由さ。離れられる自由(家族と)。社会福祉保障。人付き合い(ネットも込み) 有事に頼れるご近所付き合い。現金。

	新聞。FM ラジオ。本・雑誌。インターネット、個人が発信。個人の発言の自由。「夫婦」「家族」。
--	---

「命あるものすべてが AZUMASHII 自然体なほっかいどう」	
増やしたいもの	男女平等な雇用機会。昇進機会。自主的な学びの姿勢。ディスカッションできる場義務教育段階から)。わからないことを聞ける。逃げ場を作る、日本オリジナル、地下歩、オフライン 本音で付き合う関係、ぎもん？現代版フロンティアスピリッツ、好きな服を着ること、自分で人生を選べる、障害者への配慮、マイノリティでもありのままに生きられる。当事者意識、それぞれがそれぞれらしく、ポテンシャル人・自然。アクションできる環境、お金、責任。コンパクトシティ。国立公園。森林。自然エネルギー。エシカル消費。会話。声を上げる場、つながり。女性首長（リーダー）。そもそも論。リラックスできる場所。サードプレイス（職場、家庭以外）
なくしたいもの	家事。格差。経済的不安。雪かき。高すぎる教育費。貧困。「私なんて」セルフハンディキャッピング文化。貧困格差。「地球にやさしい」という言葉。女性にやさしい。マウンティング。被害者意識（開拓時代からの歴史的つながり）。人種差別。既成概念。マイノリティ排除。じろじろ見る。コンビニのエロ雑誌。男のプライド。マッチョ（精神的）性別・学歴での差別。年齢、学歴、社歴でのヒエラルキー。大声での叱責。ブラックな労働環境。活躍する女性を排除しようとする風潮。悪しき風潮。組織の悪いカルチャー。パワハラ。WLB を無視した残業。外来種。自殺。輸入。外来語。原発。結婚出産＝退職。



## 2. ワークショップ以外からいただいた声

- ・大学進学率の男女差のことを取り上げてられていましたが、北海道は男女格差が大きい方に入っていたようです（10ポイント以上の開きがあるそうです）。小さなことですが、首都圏に進学した北海道出身の学生向けの北海道は男子学生だけが対象となっていますよね。経済的な負担にも配慮して女の子の進路の選択肢が広がるような施策も考える必要あるかなと思います。
- ・子育てしながら、家庭の家事（料理、洗濯、掃除、家を回すこと、お弁当作り、お片付け・・・）が本当に女性にかかっている、なんだかな～となっている。男女とも同じように仕事をしている方でも、今までの育ってきた環境や、周りの人

も同様ということで、女性にかかる負荷が多い→男性だから、女性だからという視点よりも、同じ人間として個別のニーズにこたえるサービスや思想があるとうれしいのですが。そういった視点が外国諸国よりも日本は弱いと思います。昨年2回スウェーデンに行ったとき、ベビーカーを押す父たちの姿が颯爽としていてすてきでした。(両親ともに親は1週間に何時間以上子どもと一緒にいないと罰せられるということでした！)

- 公共のサービスの延長サポートで、バスや地下鉄でもベビーカーを押したり、自転車に乗せることができたり、荷物を運ぶサービスがあったりなどあるといいと思います。みんなが楽になるから、ひいては日本では女性たちが担っている割合が高い買い出しやお散歩や移動などが楽になるなど思いました。そうした乗り物に補助金があるとか、市町村が採用しやすいなどの仕組みがあるといいのでしょうか。
- 働いている友人の女性が、東京在住で、保育園に子どもを預けられないから、個人か会社がしている子どもを数時間みてくれるサービスを有料で使っていました。東京ではそうしたサービスが多いのでしょうかね。それでも足りないといっていました。岩見沢の友人は市が月に何十時間そうしたサービスを提供して、母が美容室に行ったり、からだを動かしたり、リフレッシュする時間を確保したり、仕事をしたりに使えるという話をしていました。

当たり前のようにそうした母の自由になる時間が確保できると、子どもの心身のすこやかにもよさそうです。それが収入や配偶者の有無や育児に対する個人の考え方などの状況によらないといいなと思います。日本は皆保険だから出産などにも補助が出ていてその中で入院費などはまかなえると聞きました。アメリカは場合によっては300万円くらいかかるなど、現実的に厳しいとか。日本の持ついい面がたくさんあると思いますが、きつい面も本当に挙げたらきりがありません。だからこそ希望をもってみんなの癒しをサポートできるといいな〜と祈っています。大家族や地域的な子育てなどは必然的に誰かの大変だ！が軽減されてうまく回っていたのかな〜なんて思ったりします。現代も、元気なアクティブシニアの方は多いでしょうから、コミュニティに生きているハブのようなお方に光を当てて「こことここがつながる」〜なんて教えてもらおうとかアナログな方法が一番はやかったりして。

- 今日、異業種で話をしていて、幼稚園の園長から根拠なく、母親が仕事に没頭し過ぎるから、根拠ないが子どもがグレる言われたと、ビックリしました。平成の忘れ物のジェンダー格差。先の教育者の言い分にしても、海外との違いは教育にあると思います。やはり、そこに切り込まない限り、現状は変わらないでしょう。残念ながら、改正児童館ガイドラインにも、ジェンダー表記はありませんでした。数値目標を定めて、無理にでも格差是正したところで、表面的な変化にしかならないでしょうね。
- ジェンダーギャップ指数の日本の低さにビックリしました！小さいころから私たちは「〇〇らしく」とかこうあるべきで育てられた気がします。1人1人オギャーと生まれたときに本当の自分はちゃんとあって、それを伸ばせる教育でありたいと思います。教育にも関わる奥の深い分野ですね。
- ジェンダーのことっていつも優先順位低いですよ。それだけ大切にされていないんだって感じます。「こうじゃなきゃダメ」というバイアスで、押しつぶされてる人ってものすごくたくさんいると思います。私たちLGBTは、それで死ななくていい人がたくさん死んでます。私よりずっと能力や才能がある人もうまく生きられない状態で、悲しくなります。ジェンダーの平等、格差の是正はこれからの日本にとって急務だと思います。
- ダブルケアの問題も取り上げてもらいたいです。まずとりかかりたいのは・女性ひとりが抱え込まない。・ダブルケアで孤立しない。・地域で支える。・離職しなくてもできる。ことでしょうか。また、民間の統計や調査でも貴重なものがたくさんあります。そういったものもぜひ利用していただきたいです。

### 3. ワークショップ等からわかったこと

#### ①ジェンダー平等に関わる課題は、個人的な課題と捉えられ、顕在化しにくい

ワークショップから、女性たちがジェンダーに関連した課題について「増やしたいこと」より「なくしたいこと」が多かった。また、「なくしたいこと」をあげる過程において、個人の経験が多く語られたことが印象的であった。たとえば、職場で受けたハラスメントのこと、家庭内での役割分担やパートナーとの関係性に関すること、等々。普段当たり前に経験していて地域や社会の問題ではなく「自分さえ我慢すればいい」と個人的な問題と捉えられ、顕在化しにくいのがジェンダー課題であることを改めて感じられた。

#### ②ジェンダーの視点はすべての目標に関わっていることが女性たちの語りからも明らかとなった

ジェンダー課題がクロスカuttingイシューであることはこれまでの懇談会でも指摘されてきたが、ワークショップの中でも、「ジェンダー平等」以外の目標におけるジェンダーの視点で語られたものが多かった。たとえば、「女性の貧困」、「女子への教育」、「働きやすさとジェンダー」、「雪かきと女性の負担」など。

### 4. ビジョンへの具体的な修正、加筆のお願い

最後に、推進ビジョンに対して、下記のとおり修正、加筆を提案いたしたい。

特に、今回はビジョン原案作成の過程において、女性の声を聴き、生かすタイミングがなかったため、今後のビジョンのモニタリングや見直しの際には、女性等の脆弱な立場に置かれた人々の声を丁寧に聞き取りそれを反映させること、またすべての目標に向けてジェンダー視点の主流化を徹底することをお願いいたしたい。

該当箇所	現段階の表現	希望する修正後の表現	備考（理由等）
p 72	企業の実践例 「女性活躍推進セミナー」を開催	企業の実践例 女性管理職の登用、セクシュアル・ハラスメント防止の徹底、女性社員の職域拡大、…	多くの企業において、「女性活躍推進」の啓発のステージはすでに終わっており、具体的なアクションを推奨する段階にあるため。
p 82	記載なし	「ビジョン推進のモニタリング、見直しの過程においても、脆弱な立場におかれた人々（子供、若者、障害者等）の声を反映させ、常に人権の尊重と、ジェンダー平等の実現及びジェンダーの視点の主流化といった視点を確保する。」	全体にわたり強調している「脆弱な立場の人への配慮」と「人権尊重、ジェンダー視点の主流化」が、推進の部分では抜け落ちているため。

以上